

【気象台からのお知らせ】～ 台風に備えましょう～

8月から9月にかけては、1年で最も台風の発生・接近・上陸が多くなる時期となります。統計によると、年間でおおよそ26個の台風が発生し、そのうち、おおよそ11個が日本に接近します。北海道への台風の接近数は平年では2個に満たない程度ですが、平成28年は5個の台風が接近し、そのうち3個が上陸するという稀に見る年となりました。これらの台風がもたらした大雨により道内各地で多くの被害が生じたことは記憶に新しいかと思えます。

台風による災害は、主に暴風・大雨・高潮・高波によるものです。

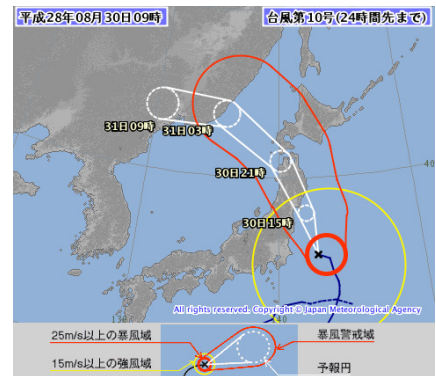
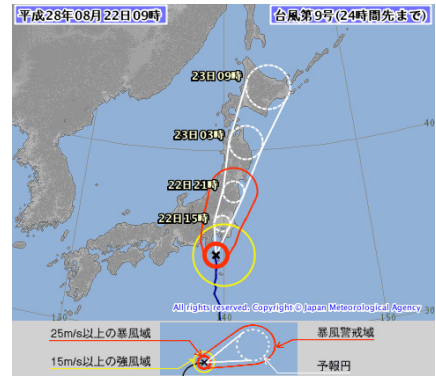
気象庁では、台風が発生すると台風の位置や強さなどの実況と3日先までの予報、さらに最長5日先までの台風の位置の予報を発表します。また、台風が接近し、災害の起こるおそれがある場合には警報や気象情報を発表し、警戒を呼びかけます。更に重大な災害が起こる可能性が非常に高まった場合には特別警報を発表します。

テレビやラジオ、気象庁のホームページなどで最新の気象情報をチェックして台風接近に備えてください。

台風による災害から身を守るために、次のことに注意しましょう。

【台風が接近する前】

- 避難場所までの経路や危険な場所を家族で確認しておく。
- 非常用品や水の確保状態を確認する。
- 屋外の植木など飛散しそうなものは、屋内に片付けたり固定しておく。
- 大雨による浸水や土砂災害、河川の氾濫の危険があるので、低い土地、斜面や川のそばに住んでいる方は 早めの避難を検討する。
- 高潮による浸水や高波が岸壁を越えてくるなどの危険があるので、海岸付近にいる方は早めの避難を検討する。



▲ 台風進路予想の例

上図：平成28年台風第9号
下図：平成28年台風第10号

【台風が接近して大雨や暴風の影響を受け始めた時】

- 不要な外出は避ける。
- 地元市町村から出される避難指示（緊急）や避難勧告、避難準備・高齢者等避難開始などのお知らせに注意する。
また、指示等がなくても、自ら危険を感じたら屋内の安全な場所に移動または避難する。
- アンテナなどの補修のために屋根に登ることは絶対にしない。
- 増水した川や高波が打ち寄せる海岸や防波堤には絶対に近づかない。
また、台風が低気圧に変わったり、雨や風が弱まったりしても、警報など各種防災気象情報が解除されるまでは、川の増水や土砂災害の危険があるので、川や斜面には近づかない。

気象庁は、警報・注意報を発表したときには、土砂災害、浸水害、洪水害の危険度を色分けして地図上に示した「危険度分布」を気象庁ホームページで提供しています。これらの「危険度分布」によりそれぞれの災害が発生する危険度が高まっている地域を簡単に把握できるので、台風の接近が予想されるときや影響を受け始めた場合にもぜひ活用してください。

問合せ 札幌管区気象台 天気相談所 ☎011-611-0170

余市町の空間放射線量率の状況

空間放射線量率は「**平常レベル**」でした

測定日：7月24日～8月23日
最高値：59nGy/h
最低値：37nGy/h
平均値：40nGy/h

※直近の測定結果については、町ホームページでご覧いただけます。

私たちは日常的に自然界から微量の放射線を浴びています。平常時に測定される「空間放射線量率」は10～60ナノグレイ毎時（nGy/h）程度で、雨が降ると一時的に上昇する場合があります。

問合せ 地域協働推進課 ☎21-2142